

平成 29 年度第 3 回高岡市介護保険運営協議会議事録

日 時：平成 29 年 12 月 18 日（月）午後 6 時 30 分から

場 所：高岡市役所 8 階 803 会議室

（審議・意見交換要旨）

<事務局説明>

（1）第 7 期高岡市高齢者保健福祉計画・高岡市介護保険事業計画（素案）

①とりまとめ表

②素案冊子

委員

認知症施策について、認知症疾患医療センターに関与していただくのは、非常に大事なことだと思う。介護保険運営協議会や、その他に会議に、委員として認知症疾患医療センターの代表の方に入っていただくのはどうか。

事務局

現在、認知症初期集中支援チーム検討委員会には、認知症疾患医療センターの職員に参加していただいている。今後も、様々な施策の検討の場に認知症疾患医療センターの方に参加していただきたいと考えている。

委員

キャラバンメイトの養成や各地域包括支援センターの認知症地域支援推進員のサポート等は、認知症疾患医療センターの設置要綱に書いてあることである。このような会議に、認知症疾患医療センターの方も積極的に参加していただき、どんなことを考えているのか聞かせていただけるよう、高齢介護課からも働きかけてもらえないか。

事務局

せっかくできた施設なので、来年度からと言わず、今年度からできる限り関係性を持ち、情報共有を図ってまいりたい。

委員

機能強化型地域包括支援センターというのは、11 か所のうち、2 か所に設置されるとおもうが、その 2 か所には具体的にどのような人員が配置されるのか、どのような機能をもたせるのか。地域包括支援センターは認知症の支援は非常に重要な業務と捉えているが、職員の疲弊感は認知症に関係する業務によるものだけではない。

市がこのような構想を持っているということを、地域包括支援センターの管理者は誰も知ら

ないと思う。構想を練っている段階で、少しでも地域包括支援センターの意見も聞いてほしかった。機能強化型地域包括支援センターのみ人員が増えて、残りの9か所の人員はそのままなのか。例えば、射水市は聞いたところによると、現在5人のところ、7人に増員するようである。職員配置を厚くしていただくことで、認知症のみならず様々な問題に対応することができるので、認知症高齢者支援機能強化型地域包括支援センター2か所設置の理由が分からない。

事務局

第6期計画では、認知症初期集中支援チームを1か所設置し、非常に心強い体制ができた。この3年間で認知症に関するものも含め、相談件数がとても増えている。そこで、認知症初期集中支援チームをもう1か所設置し、チームと包括支援センターとの連携をさらに強化していくということを考えた。認知症初期集中支援チームと同圏域で、機能強化型地域包括支援センターを設置できないかということを、案として第7期計画に位置付けることを提案させていただいた。他の地域包括支援センターの後方支援を想定している。市も基幹型に近いカタチで、バックアップしていきたい。市全域というのは範囲が広いので、まずは、エリア内での体制づくりを第7期計画の中で取り組んでいきたい。

委員

具体的に、職員5人配置の地域包括支援センターは、そのままの人員なのか。また、機能強化型包括の人員はどうなるのか。認知症初期集中支援チームは医師も認定看護師もいて、既存の地域包括支援センターにはない機能があるので、非常に助けていただいている。この、機能強化型地域包括支援センターは、既存の人員と同じような職種が増員になるのか。認知症初期集中支援チームやかかりつけ医等の協力があれば、他の地域包括支援センターの力を借りてまで解決が必要な問題があるとは思えない。また、機能強化型地域包括支援センターの職員が、すぐに応援に来てくれるような体制に、本当になるのか疑問である。

委員

地域包括支援センターはいつも忙しそうで、居宅介護支援事業所としては、相談しにくいところがある。なるべく、地域包括支援センターに負担をかけないようにという思いもある。機能強化型地域包括支援センターを作っていただくのは、ありがたいが、地域包括支援センターの人員をもっと増やしていただきたい。

委員

認知症初期集中支援チームは、機能強化型の地域包括支援センターに置くのか。

事務局

人員体制については、現行どおりである。

事務局

初期集中支援チームは現在、高陵・下関地域包括支援センターに配置している。もう1チー

ムについては、これから検討していくが、必ずしも同じ地域包括支援センター内に配置するとは限らない。

委員

認知症初期集中支援チームを運営しているが、現状はとても厳しい。業務内容が、「認知症初期」を超えている。どこまでの範囲をチームとして対応し、その後どうするのかというところまでを考える必要があると感じている。認知症初期集中支援チームを継続していく必要があるのなら、しっかりとした体制づくりをしてほしい。

委員

第7期計画として、「人づくり」を掲げていく。現場で働く人たちの疲弊感をどのようにコントロール、改善していけるのかというのが、ひとつの大きな課題である。市として財政の問題もあるが、そこを含めたうえで、どう現場の人を守っていくのかというのを考えていかないと、財政と同時に「人」の破綻というのも考えられる。

委員

地域包括支援センターの意見を吸い上げてほしい。市民が相談に来られるのは、認知症のことだけではない。

また、総合事業について触れられていない。市は、「住民主体の通いの場づくり」と簡単に言われるが、この業務量が莫大で、とても負担になっている。総合事業が始まって、地域包括支援センターの業務量がとても増えた。同時に、求められる質も高まっている。機能強化型地域包括支援センターを作ること、市全体の地域包括ケアシステムが構築されていくとは思えない。今いる地域包括支援センターの人員を、支えてもらうことが、本当の「人づくり」になるのではとも思う。

今回市が提案された施策の8割程度を、地域包括支援センターが担っていくのだと思うが、地域包括支援センターの職員がつぶれてしまったら、第8期や第9期も繋がっていかないと思う。ぜひ現場の意見を吸い上げたうえで、この計画をより良いものにしていただきたいと思う。

事務局

地域包括支援センターの大変さは、十分理解している。私見として、市の組織体制の再編ということで地域包括担当を配置し、リスク分散を図り、地域包括支援センターを支えたいと考えている。

<事務局説明>

(2) 今後のスケジュール

委員

かなりタイトな日程だが、大丈夫か。

介護保険料については、いろんな方がいるので、過度な負担にならないようにしていただきたい。

また、過度な労働やメンタルヘルスの不調など、いろいろな相談を受ける。働く人が明るく元気よくやっていないと、若い人がついてこない。みんなが安心して働けるように、進めていきたい。